

# 尾瀬ネットワーク通信

Vol. 17. No. 2 2014年8月



## 目次

地域自然資産地区の自然環境	…1
群馬側活動報告	…2, 3
福島側活動報告	…3, 4, 5, 6
尾瀬ニュース	…6
チョウと植物の受粉生態学的調査	…7
事務局便り	…8

## 地域自然資産地区の自然環境保全に入域料

～地方自治体による環境保全を支援する関連法が成立～

理事長 永島 黙

6月18日、参議院本会議において「地域自然資産地区における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進に関する法律」（以下「地域自然保全法」という）が可決、成立した。

この法律は利用者に負担を求めるために法的根拠を与えることで、自然環境保全費用を確保し、公的資金による取り組みに加えて自然公園等におけるトイレや木道・登山道の整備・維持管理等により自然環境保全等を図るのが狙いである。

### 受益者負担は時代の潮流

本紙2013年11月号の巻頭文で「国立公園の入山料を容認する社会へ」と題して、富士山と尾瀬の入山料について取り上げたが、各種アンケートからも「自然公園の利用には受益者も応分の負担」という認識が確実に広まってきている。

### 自然公園等で入山料を徴収している地域(一例)

出典: 各自治体・団体のHP

地域	所在地	入山料の名目	料金(大人) その他
知床五湖（地上遊歩道利用調整地区）	北海道斜里町	手数料	500円、250円、自然公園法に基づく立入認定の手数料
大台ヶ原（西大台利用調整地区）	奈良県上北山村	手数料	1000円、立入制限30人～50人～100人/日
屋久島（白谷雲水峡）	鹿児島県屋久島町	協力金	300円、鬱蒼とした照葉樹と苔の森
ミニ白神	青森県鰺ヶ沢町	利用料金	500円、官地民木による禁伐の森
両神山（白井差新道）	埼玉県小鹿野町	環境整備代	1000円、私有地・入山制限30人/日
富士山	山梨県・静岡県	協力金	基本1000円、本年から本格導入
伊吹山	滋賀・岐阜県境	協力金	300円、本年は試験導入

今回の入域料は、財政難で保全対策に二の足を踏む自治体にとっては大きな支援となる。

これまで法的根拠がないため、ほとんどが強制力のない任意の協力金となっている。かつては尾瀬でも環境省の入山料構想が頓挫した経緯があるが、これも当時は法的根拠がなかったからだ。

最近は各地で世界遺産、エコパーク、ジオパークなど、地域ブランドの確立に力を入れているが、国民は質の高い手つかずの自然を強く望んでいる。

尾瀬の利用者や事業者は、貴重な自然を後世に伝える責務がある。自然保護に先進的に取り組む地域であれば、たとえ有料であっても質の高い自

然との触れ合いは、必ず入山者の共感を呼ぶと確信する。

利用者ニーズと称して都会の利便性を無節操に導入したり、課題の放置や利用にウェイトを置いた施策を続ければ、やがて尾瀬は魅力を喪失して、一般の観光地に成り下がってしまう。

全ての尾瀬関係者が長期的な視点に立ち、自然を主体とした尾瀬の将来像を共有しなければ、人間の欲望の代償として失うものは大きい。

### 入山料で保全対策の強化を

入山料に関する法律は自然公園法の利用調整地区制度による「立ち入り手数料」と地域自然保全法による「入域料」の2本立てとなる。利用調整地区制度では立ち入り制限（入山規制）も可能であるが、地域自然保全法では入山規制は定めてい

ない。地域自然保全法は公布日（6月25日）から起算して1年以内（政令で定める）に施行することになっている。

自治体は土地所有者や地域住民、関係事業者、学識経験者らと協議し、保全する区域や入域料の額、徴収方法、使途などの「基本方針」を策定し「地域計画」に基づき保全等の事業を実施する。

入山料徴収に対して、地元の事業者は入山者が減り経営が厳しくなるなどと、反対論が多数を占めるケースが多いが、大局的見地に立てば、今こそ尾瀬国立公園の山積する課題の解決に大きな力となる入山料を導入する好期である。

平成 26 年度

## 群馬側 第 1 回活動報告

担当理事 清水 博之

日時：2014/06/07（土）a.m. 7:00～p.m. 2:30

場所：鳩待峠（入山指導）・山ノ鼻（外来植物調査）

概要：

関東地方に大雨洪水注意報が発令されたこともあり、一般の入山者は少なかったが、ミズバショウの最盛期もありツアーバスによる団体が大多数を占め、大混雑の状況であった。



当初入山指導後は、アヤメ平の植生観察を予定していたが、天候の悪化のため尾瀬ヶ原行きに変更をした。

○6月30日までは至仏山の登山は禁止されているため、ほとんどが山ノ鼻～尾瀬ヶ原ルートを利用している（日帰り）。300部ほどのリーフレットを配布し、安全登山や自然保護への理解度を高める入山指導を行った。

何台ものバスを連ね、学校行事として尾瀬を訪れた150人を超える中学生たちの大集団で、入山口から延々の長蛇となった。この人数規模で行う一列行進で、生徒たちにとって本当に尾瀬をフィールドとした学習となるのであろうか。



○山ノ鼻の小屋周辺には、クレソン（オランダガラシ）、ギシギシなど外来植物やオオバコの繁茂が進んでいる。クレソンは、2011年白砂湿原で関係官庁に申請の上、除去作業を行った。今年度も関係機関や尾瀬保護財団と連絡を取り、他のボランティア団体とも協力して、継続的な除去作業が必要である。また休憩所で入山者の靴底に種子が付着し、尾瀬ヶ原に散乱することが懸念される。



この時期ミズバショウ、リュウキンカ、ミネザクラ、シラネアオイ、タテヤマリンドウ、ショウジョウバカマなどがまさに見ごろであった。また至仏山には残雪があり、ミズバショウとのコントラストは絶景であった。

参加者：飯沼巳好、大山昌克、小鮎 守、坂本敏子、椎名宏子、清水博之、永島 勲  
(以上、計7名)

平成 26 年度

## 群馬側 第 2 回活動報告

群馬側担当理事 小鮎 守  
理事 清水博之

1. 日時：2014/07/13（日）

a.m. 7:00～p.m. 3:00

2. 場所：鳩待峠/山ノ鼻研究見本園/尾瀬ヶ原（上田代）

3. 概要：

7月9日に鹿児島に上陸した超大型台風8号は、梅雨前線を刺激し10～11日には関東北部、東北地方にも風雨をもたらしたが、台風接近の予報にもかかわらず、入山者は予想外に多

く、第2駐車場（並木）は満車および戸倉スキーサー場にも多くの駐車がされていた。

至仏山は7月1日より登山可能となつたため早朝より多数の入山で賑わっていた。

当初予定の至仏山南面道の調査は、雷雲の関係で変更し、朝9時半まで鳩待峠にて入山指導を行つた後、尾瀬ヶ原のチョウの調査に変更を余儀なくされた。



チョウなどの吸蜜行動調査に欠かせない調査地点の選定を行う。研究見本園で2ヶ所、尾瀬ヶ原で1ヶ所を決める。昼前から雨の降り方も強くなり、チョウの飛翔はなかなか見つけることが難しくなる。



研究見本園では、九州から尾瀬に訪れた方々に新しく作成した「尾瀬の昆虫」のリーフレットを使用した解説を行い、尾瀬の花とチョウの関係を説明に大いに感謝される。

今年のワタスゲは見事であり、ニッコウキスゲ、トキソウ、コウホネなど初夏の気配を感じさせた。また久しぶりに多くのオゼコウホネの可憐な花を見ることができた。



4.参加者：大山昌克・小鮎守・清水博之  
櫻井博・宮前和夫（櫻井はチョウ調査のみ）

## 福島側 第1回活動報告

2014年5月23日（金）～25日（日）

**福島側担当理事 藤田 隆美**

5月23日（金）晴れ 会津島駅に12時50分集合し駒止湿原を散策した。すでに雪が消え、ショウジョウバカマ、リュウキンカ、ワタスゲなどが湿原一面に咲きほこっていた。

この日は桧枝岐村ひのき屋に前泊。

翌24日（土）晴れ 午前7時～10時30分までバス添乗解説（尾瀬御池～沼山峠口）入山指導、活動協力金依頼等の活動をした後に、尾瀬沼まで往復した。沼山峠口から大江湿原までは例年なく残雪が多い状況である。



残雪を踏みしめて大江湿原へ向かう。

大江湿原から尾瀬沼間は雪が消えて間もない早春の状況であった。湿原内に走る木道の南側に、戊辰戦争時、会津軍が大江湿原に駐留して4つの土壘を築いた中の1つが確認される。会津軍は尾瀬を越え戸倉で交戦したために使われることはなかったようだ。

尾瀬沼湖畔のミズバショウは咲き始めの状態であった。登山道から見えにくいが、大江湿原入口北側約20メートルの付近に昨年秋に試験的に設置した

ニホンジカ侵入防止のネットが確認される。ネットに綻びや、雪の重みで大きく垂れ下がっている箇所も多々あった。



試験的に設置したニホンシカ侵入防止ネット

また尾瀬沼では運よくアカシボが見られた。  
翌25日（日）は7時～10時まで入山指導、バス添乗解説等の活動を行った。

#### （参加者）

安部晃樹・飯沼巳好・磯部義孝  
伊藤アケミ・大山昌克・坂本敏子  
円谷光行・永島 熱・鍋山智之  
疋田正博・藤田隆美

合計 11名



大江湿原から見た燧ヶ岳



沼山峠行きのバスに乗り込む（御池駐車場）

### 第2回 福島側活動報告

**指導員 疋田 正博**

実施日：2014年6月13日（金）～15日（日）

- 6月13日（金）檜枝岐村の「ひのき屋」に午後5時に集合、明日の活動の打合せを行う。
- 6月14日（土）雨時々曇り  
シャトルバスの乗車券売場前にテーブルを設置、午前7時30分から11時まで入山指導及び啓発活動を行う。水芭蕉の最盛期と土曜日が重なったので、雨天にも拘らず多くのハイカーで賑わった。



■入山指導の活動と並行して沼山峠行のバスに添乗し当法人の説明やブナ林、29番目の国立公園、水芭蕉など尾瀬に関する情報提供や入山に当たっての心得を案内する。臨時のバスが増発されたので、添乗解説を多く実施できた。

■午後からは、重兵衛池等の自然観察会を実施する。

重兵衛池では、水面上にせり出した木の枝に泡で包まれたモリアオガエルの卵塊（写真）や、水中に産みつけられたゼリー状のサンショウウオの卵のうを確認した。なお、モリアオガエルは生息地の環境悪化から各地で生息数を減らしている。

■スモウトリ田代では、白い仏焰苞が二つある双苞水芭蕉を発見する。南会津の駒止湿原では見ら



れるが、尾瀬  
では珍しい  
のではない  
か。

スモウトリ田代の由来は、力の強い“木こり”が鬼とこの地で相撲を取って負かしたという伝説からきている。また御池田代では、新たなシカの“ヌタ場”を確認する。(写真参照)



○6月15日(日) 晴れ

■御池ロッジに宿泊のため、午前7時から入山指導を開始した。陽射しを受けて木々の緑は、鮮やかさを増し青空に映えている。好天なので多くの入山者を期待したが、出足は伸びず臨時バスの運行もなかった。さわやかな天候は訪れる人の気持ちを和らげるのか、行動にゆとりが感じられる。

バス添乗解説を終えると高齢の女性より、バスの中で尾瀬の解説を初めて聞き、知らなかつたことを理解できたので、今までとは違った視点で尾瀬が楽しめそうです、とお礼を言われた。

(参加者)

飯沼巳好・磯部義孝・伊藤アケミ  
坂本敏子・高橋喬・円谷光行  
疋田正博・藤田隆美 (計8名)



### 第3回 福島側活動報告

指導員 飯沼 巳好

実施日：2014/7/18(金)～20(土)

緑の地球防衛基金理事長の大石正光氏が当会の活動を視察され、雨のなか尾瀬福島側の実情調査と入山指導の活動体験をしていただきました。

7月18日(金)御池ロッジ前泊し、夜間20時30分よりニホンジカ調査に向かうが、時折強く降る雨が止まず、シカもお休みか。

翌19日(土)午前7時～10時30分までバス添乗解説と入山指導、協力金のお願い活動を実施。福島側尾瀬アカデミーが同時開催され、磯部副理事長、円谷事務局長、初谷理事が燧裏林道から温泉小屋へ向かう。われわれも雷とゲリラ豪雨が襲う中、沼山峠に向かいニホンジカの防護柵を確認。

(写真：シカ柵：

林野庁会津森林管  
理南会津支署/平成  
26年7月施工)

ニッコウキスゲ  
が盛りの大江湿  
原へ向かう。



19日(土)桧枝岐村ひのき屋に宿泊し20日(日)7時から10時30分までバス添乗解説と入山指導を実施。朝のうちは曇りだったが、時折大雨の天候。ニッコウキスゲ最盛期シーズンであり、多くの入山者が予想されたが、御池駐車場も空きがあり、会津バスも多少手持ち無沙汰の3日間だった。



(雨にけむる大江湿原のニッコウキスゲ)

鍋山指導員より、木道脇奥にひっそりと咲くイチョウラン（一葉蘭）の存在を教えてもらう。

日本固有種であり、福島県、群馬県、新潟県を



はじめ他県でも絶滅危惧種に指定されている。

イチョウラン

（撮影：大山昌克）

（参加者）安部晃樹・飯沼巳好・大山昌克

小林ミヨ・坂本敏子・佐藤秀雄

椎名宏子・高橋喬・刀光夫

円谷光行・永島勲・鍋山智之

疋田正博・藤田隆美（計14名）

### 尾瀬 NEWS—新聞記事より/要旨



#### ○尾瀬、シーズン到来…残雪にミズバショウ

「尾瀬山の鼻ビジターセンター」が16日、オープンした。ミズバショウの見頃は今月下旬から6月上旬という。

群馬県は7月12日～9月19日の70日間、「大清水～一ノ瀬」区間の入山者を低公害車で移送する社会実験を実施する。入山口を分散する狙いがあり、結果を踏まえ来年度から実用化する予定。

（2014/05/17：読売）

#### ○尾瀬沼ビジターセンター 現状の発信に力

尾瀬沼のほとりにある尾瀬沼ビジターセンター（設置者・環境省）は情報発信の方法を今まで以上に工夫し、入山者が参加できる企画を数多く開催している。原発事故や動物の食害による風評や誤解は根強く、尾瀬の現状を伝えることに最も力を入れている。センターは今年度から自然環境調査会社「エス・アイ・エイ」（栃木県高根沢町）が管理・運営している。尾瀬が単独国立公園になってから初めて、尾瀬保護財団以外への委託となった。

（2014/07/01：福島民報「保護と観光両立に捧ぐ」より）

#### ○尾瀬沼周辺を再整備-環境省方針

地区内にある同省の施設を中心に、ビジターセンターの新築、入山者が休息・交流する中央広場や展望広場の設置、沼の近くにある湿原を観察する木道の整備などの案が浮

上。（6月）10日までに同省が村などに構想を示した。ビジターセンターは基本計画から5～7年程度での整備を想定。

（2014/06/11：福島民報）

#### ○7月、10月に「尾瀬アカデミー」

##### “尾瀬の自然を後世に”

NPO法人尾瀬自然保護ネットワークは7月と10月の2回、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺で自然保護活動をする「尾瀬インタークリー養成講座（尾瀬アカデミー）」を開く。受講生10人を募集している。申し込み締め切りは21日必着。

（2014/06/17：福島民友）

#### ○自然資産区域に入域料、保全費に

##### …関連法成立

貴重な自然や文化財を保全するため、自治体が「地域自然資産区域」を設けて入域料を徴収し、保全費に充てることを認める関連法が18日、参院本会議で可決、成立した。観光客らに負担を求める受益者負担の考え方を法的に位置づけ、保全費の不足に悩む自治体の財源確保を支援する。

（2014/06/18：読売）

#### ○シカの食害対策万全

##### 尾瀬・大江湿原囲む防護柵設置

尾瀬で深刻化するニホンジカの食害を防ごうと、国、県、地元町村が連携しての本格的な対策が1日から始まった。林野庁は同日までに大江湿原を囲む防護柵の設置を完了。防護柵は沼山峠側の木道から尾瀬沼の近くまで、全長約3.5キロにわたって設けた。高さは約2メートルあり、支柱と支柱の間に金属性の丈夫な網が付いているので、シカは容易に侵入できない。防護柵が本道と交差する地点は、金属製の網目の「道」にしてシカが湿原内に入れないようにした。

（2014/07/02：福島民報）

#### ○尾瀬燧ヶ岳へ代替ルート整備

##### -通行止めの見晴新道-

県と檜枝岐村は合同で、新潟・福島豪雨などの被害で通行止めになっている尾瀬の燧ヶ岳（2,356メートル）への登山道「見晴新道（みはらしじんどう）」に代わる新ルートの開拓に向けた調査に入った。整備計画が固まり次第、年内に林野庁に報告する。有識者らでつくる同庁の第三者機関の了承が得られれば、県は平成27年度の早い時期に土地を所有する同庁に貸付（たいふ）申請する予定で、早ければ27年秋にも供用を開始したい考え。

（2014/07/4：福島民報）

# チョウと植物の受粉生態学的調査

指導員 宮前和夫

【日時】2014/7/12（土）および7/26（土）

両日とも10:00～14:00

【気象】天候（曇り） 気温（19°C） 風力（3）

雲量（100%） 日差し（なし）

7/12（土）の場合

【活動場所】研究見本園（2ヶ所）と上田代（木道沿い）

【調査内容】ニッコウキスゲの受粉方法と性表現を確認

昆虫の相対的訪問頻度を調査

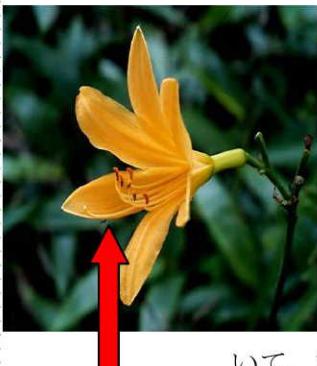
【調査方法】調査ポイントを2ヶ所設け、そのポイント内のニッコウキスゲに訪花する昆虫の相対的訪問頻度について、目視で調査をする。また、2週間後（7/26）に、その結実率を確認する。

## （調査概要）

今回の調査は、第3回尾瀬総合学術調査を担当した田中肇氏が提言している、非破壊的な方法での受粉生態学的調査となる。慣れないと難しさを感じることもあるが、木道上から目視で行えるため、生態系に影響を与えることなく調査が出来る点では、尾瀬国立公園内で実施する方法として相応しいものと考える。

第一回目の今年は、ニッコウキスゲに絞って実施し、まず、調査に慣れることを考えた。また、尾瀬ネットの活動の主目的に、入山指導を通して自然環境保護に関する普及啓発活動を行うとある。そこで、今年、新しく作成したリーフレット“尾瀬の昆虫たち”を、ベンチなどで休憩している入山者に配布し、尾瀬を取り巻く環境変化について伝えることで、調査活動を通して、有意義な普及活動になるものと考えている。

## ◆ニッコウキスゲの受粉方法と性表現



両性花であるニッコウキスゲは、開花している時間が短いため、雌雄異熟ができない。そのため、花粉を付けた昆虫がやってくると、先ず雌しべに接触できるよう、雌しべは雄しべより長くなっています、雄しべと離れている。（形態工夫）

（多様な遺伝子を持つ子孫を残し、生き抜く戦略）

## （調査結果）

（1）研究見本園で、ニッコウキスゲ（チョウ媒花、マルハナバチ媒花）に訪花した昆虫（2種）  
コキマダラセセリ（写真①）



ナガマルハナバチ（写真②）



## （2）研究見本園及び上田代で、発見した昆虫

ニッコウキスゲに訪花する昆虫は、コキマダラセセリが相対的訪問頻度（4段階）で、4であった。

〈その他目視できた昆虫（チョウ目）〉

ウラギンヒョウモン・ウラギンスジヒョウモン  
カラスアゲハ・ヒメキマダラヒカゲ

アカタテハ・スジグロシロチョウ・テングチョウ  
コヒョウモン・コキマダラセセリ他3種

〈その他目視できた昆虫（ハチ目）（ハエ目）〉

ナガマルハマバチ・ヒラタアブの仲間

## （3）結実率と昆虫の相対的訪問頻度

7/12から2週間後の7/26の調査で、研究見本園（A・B地点）の花から果実への変化は、

（7/12）開花総数=78、

（7/26）結実総数=8であった。この結果から判断すると、何らかの原因で昆虫による受粉が適切に行われなかったと考えられる。

その原因の一つは、7/12が小雨であり昆虫の姿も少なかったこと。また、ニッコウキスゲは一日花であり、気象条件（小雨）が悪く、昆虫が活動できない日があったことが、結実に大きく左右したものと考えられる。今後、開花期の天気や地球温暖化等の影響の細かいデータを分析しつつ、尾瀬の美しい景観の保全について、調査を実施して行きたいと考える。

**(4)新リーフレット配布による普及活動の効果**

今回は、短時間での観察でもあり、ニッコウキスゲと特定のチョウとの関係結果を求めるには無理がある。



有効な指標になると判断できる。また、同時に、リーフレット“尾瀬の昆虫たち”を配布し、入山者に語りかけられたことは、自然保護の意識を高める啓発活動として、大きな成果に繋がったもの考える。

**事務局だより****●当会のQRコードが出来ました！**

左記のQRコード（二次元バーコード）にスマートフォンをかざしてみてください。当会のホームページに繋がります。当会の指導員・鈴木誠一さんにより完成しました。

**●旧「尾瀬の自然を守る会」会報をHPにアップ予定**

当ネットワーク発足の原点となった「尾瀬の自然を守る会」会報を一部入手できました。尾瀬に関する貴重なこの資料は、前事務局長・椎名さんよりご紹介を受け登録します。

**●今後の活動スケジュール-2014後半-**

- （福島）8月24日（日）※8/23前泊：ひのき屋  
バス添乗・入山指導・尾瀬自然ガイド実践・外来種調査など
- （群馬）9月6日（土）～7日（日）  
群馬側第1回「尾瀬アカデミー」開催  
※7月台風のため延期分
- （群馬）10月4日（土）  
入山指導・外来種調査
- （群馬+福島）10月11日（土）～12日（日）  
「尾瀬アカデミー」群馬福島合同研修

- （福島）10月18日（土）～19日（日）

※前泊：ひのき屋  
バス添乗・入山指導

**11月（未定）理事会開催**

（次年度活動方針案検討など）

**編集後記**

○緑の地球防衛基金 大石理事長より尾瀬アカデミー開講式において丁寧なご挨拶をいただきました。新メンバーにも、大石氏の尾瀬に対する思いが十分伝わったと思われます。

○群馬、福島側ともども豪雨、雷の洗礼を受けながらの活動が続き、当初計画の変更を余儀なくされるケースもありましたが、今年度の現地活動の前半が終了しました。お疲れ様でした。やさしい雨の尾瀬はとてもいいのですが、何か気象の変化、変動が、極端に大きくなっていると思いませんか。（大山）

**NPO 法人****尾瀬自然保護ネットワーク**

Vol.17 No.2 2014年8月20日

発行人：永島勲

編集担当：大山昌克

Web 担当：鈴木誠一

**■本部事務所（事務局）**

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷方  
電話/FAX0248-94-5003

**■群馬支部**

〒370-0001 高崎市中尾町762-16 清水方  
電話 027-361-8055

Web: <http://www.oze-net.com/>

お問い合わせ

[info@oze-net.com](mailto:info@oze-net.com)<[info@oze-net.com](mailto:info@oze-net.com)>;